

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

| | | | |
|-------|-----------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 課題番号 | 22H04931 | 研究期間 | 令和4(2022)年度～ 令和8(2026)年度 |
| 研究課題名 | 社会的相互交渉における他者の行為の脳内表象に関する実験心理学的研究 | 研究代表者 (所属・職) (令和6年3月現在) | 磯田 昌岐 (生理学研究所・システム脳科学研究領域・教授) |

【令和6(2024)年度 中間評価結果】

| 評価 | | 評価基準 |
|---|----|---|
| | A+ | 想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる |
| | B | 研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、人間が他者の行為を観察し、その行為をもたらした心の状態を推測する際の神経活動を、ニホンザルを用いた実験心理学的研究により明らかにしようとするものである。具体的には、他者行為に選択的に応答する神経細胞が発見された大脳の内側前頭前野領域と腹側運動前野領域において、2領域及び2領域間の神経情報をサルを用いた実験により解読する。さらに、遺伝子工学的手法を用いて2領域間の情報伝達を遮断した際の、社会的相互交渉への因果的影響を明らかにする。</p> | | |
| <p>(意見等)</p> <p>本研究における5つの研究項目についていずれも順調な進捗を示している。研究項目2: Predictive codingの神経基盤の解明と、研究項目5: 他者行為の意図性が神経活動と社会的相互交渉に及ぼす影響の検討についてはすでに論文が公刊されており、他項目(研究項目1: 他者行為の神経表象を規定する認知行動学的要因の解明、研究項目3: 腹側運動前野から内側前頭前野へ伝達される情報の解読、研究項目4: 自由行動環境下での神経回路遮断効果の検討)についても今後の進展が期待できる。社会行動の類型化及び発現時間の定量化において、再現性と効率性を向上させる手法の開発に取り組み、期待どおり成果を上げていることも、今後の研究の発展につながると見込まれる。</p> | | |